

が快適に過ごせる環境整備を促進します。成田空港の南側エリアを「スカイパークしばやま」と位置づけ、整備を図ります。

②多様な情報発信力強化

町のイメージアップを図るため、芝山の魅力をガイドマップやポスター、町のキャラクター「しばっこくん」、SNS（※1）などのさまざまな媒体により、町内外に継続的に発信します。また、AR（※2）などのICT技術（※3）を活用した新たな町のPRを図ります。

③町への移住・定住の促進

若者から高齢者に至るまでの幅広い層の移住希望者に、「芝山町」を選択してもらえよう移住・定住促進の取り組みを図ります。併せて近居や同居、三世代居住などのさまざまなライフスタイルなどを提唱します。

④NPO、大学などの交流促進

NPO、大学などと連携し、従来の行政枠を超えた多様な事業の推進を図ります。また、連携する団体の得意分野を生かし、地域課題の解決に貢献する取り組みを支援します。

⑤オリンピック・パラリンピック支援

2020年に開催される東京

オリンピック・パラリンピックの成功に向け、町内でもオリンピック・パラリンピックに関連したイベントなどの開催を推進します。

⑥公共施設、公的不動産の活用

老朽化する公共施設の適正な維持管理、長寿命化を図ります。併せて空き公共施設、未利用不動産の需要を踏まえながら中長期的な視点に立ち、総合的な管理計画を策定し、戦略的なマネジメントを推進します。

⑦空き家対策の推進

人口減少・高齢化により、空き家、不耕作農地が増加しています。移住希望者と空き家提供者、就農希望者と離農者のマッチングについて、民間事業者や農地中間管理機構と連携した事業を推進します。

⑧交通アクセス向上

都心や成田空港、圏央道とのアクセス強化を図ります。また、JRの各駅や芝山鉄道芝山千代田駅からのバス運行など、多様な公共交通ネットワークの充実に取り組みます。

※1 ソーシャルネットワークサービス (Social Network

ing Service) の略。登録された利用者同士が交流できるWEBサイトの会員制サービスのこと。

※2 オーグメンテッド・リアリティ (Augmented Reality: 拡張現実) の省略形。コンピュータを利用して、現実の風景に情報を重ね合わせて表示する技術。

※3 情報 (information) や通信 (communication) に関する技術 (Technology) の総称。

4. 新たな世代への橋渡し

①結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援

男女の多くが結婚の意思を持ちながらも、未婚者が増加しています。そのため、若い世代が結婚の希望をかなえ、出産、育児まで切れ目のない支援が受けられるように取り組みます。さらに保育についての多様なニーズに対応できる子育て支援施設整備や、子育て家庭を社会全体で支える取り組みを推進します。

②特色ある学校教育の推進

全ての子どもたちが質の高い教育を受けることができるよう、特色ある教育や体験活動を通じ

た学習意欲の向上、子どもたちの主体的な学びを支える取り組みの充実、ICT活用による授業力の向上などを推進します。

5. 幸せ感向上に向けたまちづくり

①防災の強化と住民主体の地域防災組織の育成

災害から町民の生命・身体・財産を守るため、防災意識を高める活動に取り組みます。併せて、自主防災組織の育成強化、防災施設整備や女性も災害支援者として協力できる体制を確保します。

②ふるさとに対する誇りを高める施策の推進

芝山を愛し、住みたいと思う人の増加を図るため、町への愛着や誇りを醸成する取り組みを進めます。各種団体や企業と連携し、イベントの支援や町のような魅力を町外の方に積極的に情報発信します。

③「小さな拠点」の形成

廃校となった学校を核とした地域コミュニティの構築と人々の交流を促進するため交流人口受入施設整備に取り組みます。地域の課題に対し、住民活動団

ひとの流れづくり ⑧交通アクセス向上

## 高速バス路線を新設 芝山と東京が一段と身近に



記者会見の様子

左からしばっこくん、夏目成田国際空港株式会社社長、相川町長、浜野品川区長、バス会社の村瀬社長、大崎駅西口商店街のキャラクター「大崎一番太郎」

芝山町と東京都品川区の大崎駅を走る高速バス路線がこの秋に開設されることになり、4月26日に記者会見が行われました。

高速バスは成田空港を経由して町と大崎駅西口バスターミナルを最短90分で結びます。1日上下約30本を運行する予定で、料金は大人片道1200円（小学生以下600円）、インターネットで事前決済をすれば1000円という低価格で乗ることができます。

路線の開設は10月1日予定です。皆さんも通勤や遊びに行く際に利用してみてはいかがでしょうか？

ここまで5つの課題についてみてきました。紙幅の都合上具体的な事業まで掲載することはできませんでしたが、事業内容は多岐にわたっており、全てに取り組むことはできないかもしれません。しかし、役場や一部の人のみではなく、町に関わる全ての人が協働し、それぞれの力に合わせた持続可能な地域活動事業として取り組んでいけば、芝山町はこれまで以上に豊かで活力に満ちた町に生まれ変わっていくはずで、すでに町では、地方創生に向

体や企業、NPOなど多様な主体が連携・協働して行う取り組みを促進し、住民が生き生きと暮らせる地域づくりを進めます。

**④成田空港の機能強化、圏央道整備の推進および自治体連携**

成田空港の機能強化を推進するとともに、成田空港周辺自治体や関係機関との連携を図ります。成田空港の機能強化と合わせ、今後整備される圏央道ICなどを活かしたインフラ整備、企業誘致を図り、町の活性化を目指します。

### 「地方創生」に向けて

けて1歩を踏み出しています。それが、地方創生プロジェクト（スポーツリズムDMO構築）です。スポーツリズムDMOとは、スポーツや観光を通して若い世代を含む多くの交流人口を創出し、地域産業の振興を図る法人のことです。この法人には、町の活性化や魅力向上、新たな産業創出に活躍してもらいます。

広報5月号とともに募集用紙を配布して募集を開始したところ、数名が手を挙げてくれました。具体的な活動はまだ始まっていませんが、魅力的なまちづくりに向けてまもなく動き出します。



「芝山町人口ビジョン及び芝山町まち・ひと・しごと創生総合戦略」は町ホームページで全文を公開しています。